

2009.10.16

報道資料

NHK広報局

釜山国際映画祭でグランプリ受賞

韓国 釜山で開催されている第14回 釜山国際映画祭(PUSAN International Film Festival) (10/8～10/16)において2008年 NHK アジア・フィルム・フェスティバルでのイラク・クルディスタン地域とのNHK国際共同制作作品「僕たちのキックオフ」(英題 Kick Off)が「New Currents Award」(ニュー・カレント)部門でグランプリを受賞し、同時に FIPRESCI 賞(国際映画批評家連盟)も受賞しましたのであわせてお知らせいたします。

また、もう一つのグランプリは韓国映画「I'm In Trouble」が受賞しました。

今年の「New Currents Award」には、日本の白石和彌 監督の「Lost Paradise In Tokyo」をはじめ香港、韓国、イラク・クルディスタン地域、中国、イラン、タイ、マレーシア、フィリピン、タジキスタン、インド、の11地域から12本がノミネートされました。

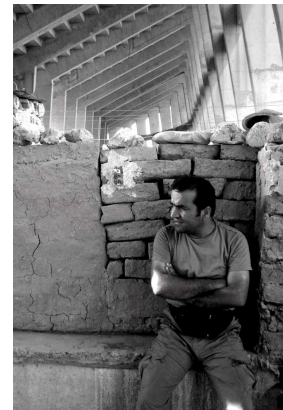
【受賞作品】

「僕たちのキックオフ」(Kick Off)

2008年 イラク・クルディスタン地域＝NHK 国際共同制作

監督:シャウキット・アミン・コルキ

出演:スワン・アテュフ、ゴワール・アンワル、
ロジャン・ハマジャサ



写真/監督: シャウキット・アミン・コルキ

(あらすじ)

イラク北部の都市、キルクーク。街では頻りに爆破テロが起これり人々は不安の中で毎日を送っていた。家を失ったクルド人たちが巨大なスタジアムの中に仮住まいを作って暮らしている。サッカーが大好きなクルド人青年アスーは地雷を踏んで片足を失った弟を励ますため、また、同じ地域に暮らす住民の対立を和らげるため少年サッカーの親善試合を計画する。苦勞の末ゲームが始まった。対立しながらも少しずつ互いを理解し始めた少年たちだったが・・・。



【受賞理由】

New Currents 賞

受賞 KICK OFF - Shawkat Amin KORKI (Iraq, Japan)

「僕たちのキックオフ」は、サッカー・スタジアムに避難民として暮らすイラクのクルド人コミュニティの不安定でつらい暮らしを描くにあたり、写実的で予想外かつ詩的で、シュールリアルとも言えるビジョンを示しており、審査員団は全員一致でこれを讃え、授賞を決定した。見通しが暗く、絶望的であったとしても、シャウキャット・アミン・コルキは同胞たちの持つ生きる事への大いなる欲求、創意工夫、苦闘も描いている。この映画はシンプルであるが、同時にイマジネーションと力強さにあふれており、監督は苦難を抱えたコミュニティが民族間で行われるサッカーの試合を準備する様子を描いている。コルキ監督の才能を審査員団は全員一致で温かく迎えた。

FIPRESCI賞

受賞 KICK OFF - Shawkat Amin KORKI (Iraq, Japan)

現代イラクの多民族環境における人々の厳しい暮らしを、詩的で創造的な手法とパーソナルで人間的なタッチで描いた功績に対して贈られることとなった。

釜山国際映画祭 (PUSAN International Film Festival)

1996年に始まりアジア有数の映画祭として知られる。第14回にあたる今年には世界70カ国・地域から 355本の映画が上映された。期間中は世界中から多くの映画関係者が参加する。今年の釜山国際映画祭では「New Currents Award」「Flash Foward Award」「Jury For Wide Angle」など8部門での賞がありなかでも「New Currents Award」が賞金も30,000US\$と一番高額。

New Currents 賞

コンペティション部門であるニュー・カレンツ部門で上映されるアジアの新進映画監督による作品の中から、最優秀2作品に贈られる。審査員団は世界的に著名な映画の専門家で構成されており、まだ一般に知られていないアジア映画の宝石を発見し続けていくことを目標とに作品を選考、またそれぞれの作品に3万ドルが授与される。

FIPRESCI 賞(国際映画批評家連盟賞)

ニュー・カレンツ参加作品を含むPIFF上映作品の中から、アジアの新進映画監督作品、1作品に対して、その実験的で進歩的な精神に対して送られる。